

みの EDO

東京⇄笠原情報誌 MAIL版

特集

建築・建材
展

セラミックタイル美濃2019

「THE TILE TRIP でかけよう、タイルの旅へー」

3月5日(火)～8日(金)の4日間、「建築・建材展 2019」(第25回)が、東京ビッグサイト(東京都江東区)にて開催された(主催：日経新聞社)。各種建材や設備機器、ソフトウェア、工法などを幅広く紹介する建築総合展で、今年の出展企業数は312社(出展小間数735小間)。本展示は「日経メッセ 街づくり・店づくり総合展」の一部で、商空間のデザインの情報を発信する「JAPAN SHOP」など5つの展示会と特別企画等を同時開催。会期中は20万人以上の来場者を集めた。



光に照らされて白く浮かび上がった姿は、遠くからでも目立っていた。



受付はツーリストインフォメーションセンターをイメージ。



「タイルの街」には、タイルを張った道も。



多治見市陶磁器意匠研究所の研究生がモザイクタイルのデザイン実習において制作した作品を展示。



初日に多治見市長・古川雅典氏が挨拶。「これからは若い人と女性の感性でタイルを開発してほしい」。

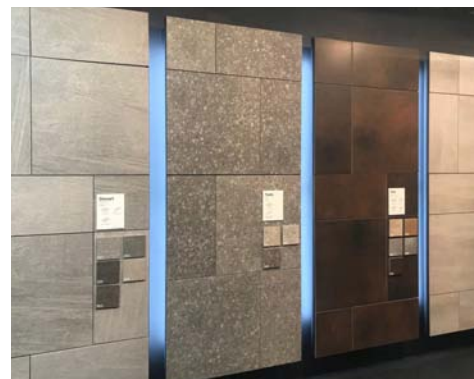
「セラミックタイル美濃2019」(主催：岐阜県・多治見市美濃焼タイル振興協会)のテーマは「THE TILE TRIP」。「タイルの街を旅する」というコンセプトにより、ビルを彷彿とさせる複数の造形物を配置し、タイルで彩られた街を表現した。

各ブースでは、18社が新製品や試作品を発表。次ページより各社の展示内容を紹介する。



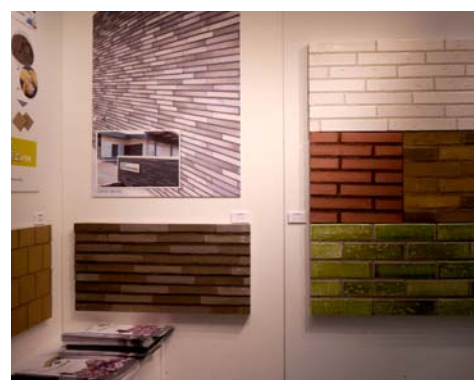
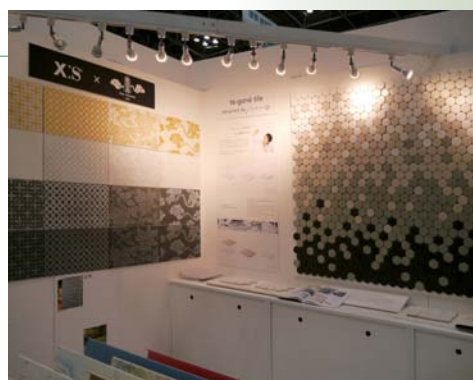
(株)アイコットリョーワ

「天然石と変わらぬ高意匠タイルを外壁に」をテーマに掲げ、600角の大判タイルを展示。また、ビル・マンション、戸建て木造住宅と、用途に沿った工法を提案。「Thello」はイタリアの希少な大理石の模様を表現。「Alley」はテラコッタ・セメント・サビのクールかつ無機質な素材の面白さを表現。



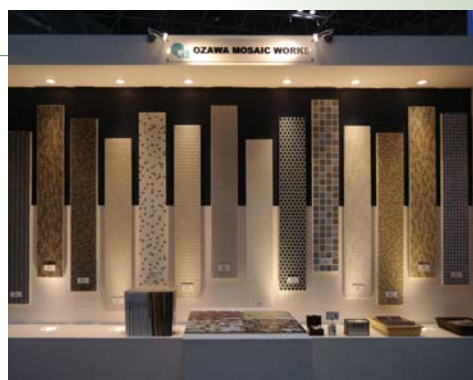
(株)エクシズ

「te-gone tile」(テゴネタイル)は、デザインオフィスnendoによるデザイン。球体・直方体といった立体の粘土を一定の間隔で並べ、平滑な面でプレスし成形。やわらかな質感を表現。写真左は、廃棄物を溶融炉で処理した際に排出する「溶融スラグ」と呼ばれるガラス状固形物をほぼ100%に近く原料としたリサイクルタイル。



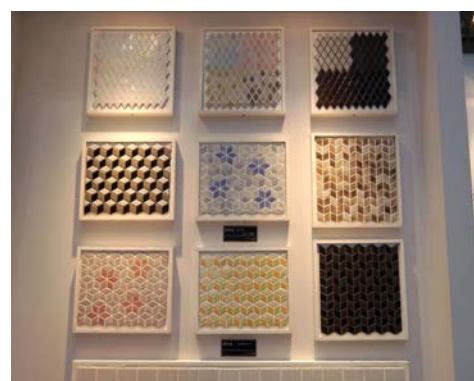
(株)オザワモザイクワークス

20年来製作を続ける定番のタイルを、シンプルな色と形状のものを中心に展示。試作品では「Roche」シリーズとして「木造の古民家に合いそうなレトロなイメージ」「元気なリズム感をイメージ」などのテーマで、色の組み合わせが楽しい4点を展示。一つひとつ型抜きをして製作。個人向けとして商品化をめざす。



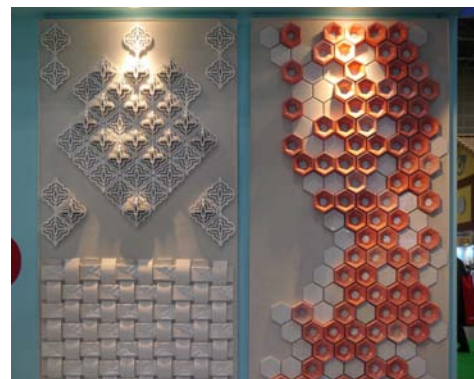
(株)カネキ製陶所

新製品「ソフティ」は、やわらかな色合いで11色を揃える。色の組み合わせや、ヘリンボーンやフランス張りなど、多様な張り方を提案。竹割りタイルにより柱などの出隅の部分にも対応する。試作品「ダイヤ」は菱形のタイルで、パターン張りにより様々な表現が可能。結晶によりきらきらと光る種類も。



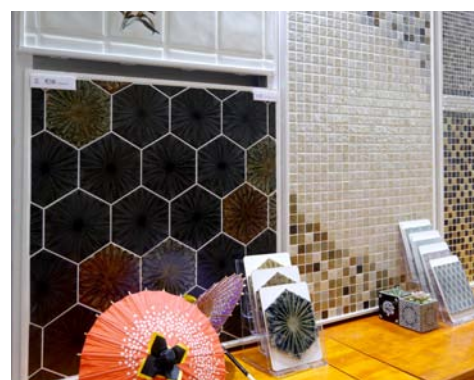
(株)加納

「工芸品をはる、贅沢」と銘打ち、立体形状の「3D アート セラミック」を展示。「Shutter Chance」はカメラのシャッターをイメージしたタイル。中央に模様のついた六角形のタイルがのぞく形になっている。流行色のオレンジピンクが華やか。従来の「Sizuku」を大きくした「Sibuki」も新しく製作。



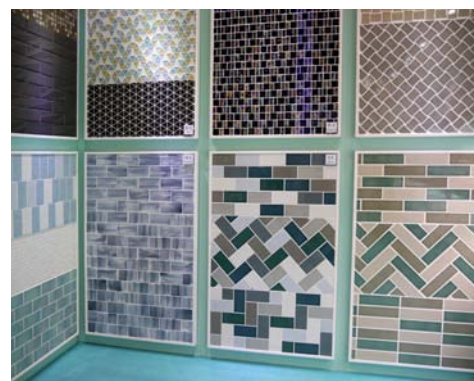
三協製陶(株)

個性豊かな色合いや素材感のあるタイルを展示。新製品の「古都シリーズ」は、和の風合いを表現したもの。「和傘」は、傘を開いたような六角形のタイルで、深みのある日本的な色合いを特徴とする。多種ある展示タイルの中から好きなものを選ぶアンケートを実施。答えた方は、張り板体験ができ、人気を集めた。



杉浦製陶(株)

サブウェイタイルを意識した「ベント」を様々な張り方で展示。筆を用いてラフに釉薬をつけた「ベントプラス」は新製品。試作品のテラゾー(人造大理石)ふうタイルは、ガラスの粒が埋め込まれている。雑貨シリーズでは、タイルと同じプレス機で製作した豆皿を新しく製作。昨年に続き、雑貨等が当たるガチャガチャを実施。



鈴製陶(株)

無釉の内外装用タイルを中心に製造・販売。試作品「サンダーロック」は、1センチ程度の細い幅を表現。手ではつったような凹凸があり、光が当たることにより豊かな陰影をみせる。「テッセラ」は、26ミリ厚を半分に割った本割肌により、一つひとつ異なる断面を楽しめる。



(株)セラメッセ

春～夏の新製品を紹介。壁一面に張られた「Caita」は、鮮やかな色彩で30色を揃え、絵の具のパレットのよう。「Kikko-ka」は、亀甲、花をイメージした商品名をもつ立体感のあるタイル。持ち運びも便利な小さな箱に入ったサンプルを新しく製作。



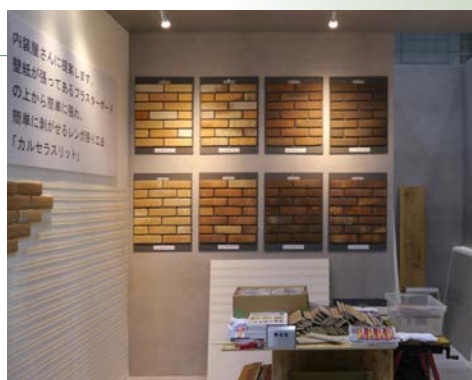
(株)谷口製陶所

湿式製法でつくられた和のテイストのタイルは、釉薬に厚みがあり、焼き物の存在感を感じさせる。「VIDRIO」は、深みのある青色が印象的。「WA-HIST」は昭和30～40年代によく使われた釉薬を復活させて使用。13ミリと17ミリの厚さの異なるタイルを組み合わせるとランダムにミックスしている。



玉川窯業(株)

タイルが積まれた作業台を置くなど、居抜き物件のリフォームをイメージした展示空間。水に浮くほどの軽量のタイル「カルセラ」は、茶系統の色で8種類を揃える。「内装屋さんに提案」として、レールを使用して簡単に張ってはがせる工法「カルセラスリット」を紹介。訪れた人も実際にタイル張りを体験できる。



(株)TNコーポレーション

「アメリカの豊かなタイル空間」をコンセプトとし、床や壁、窓のような空間に、様々な形状の新製品を展示。「TSUMUGI」(絨)は、乳濁した深みのある色合いが特徴。「KEEL」は細長いアーモンド型がユニーク。今回新しく、QRコードからタイルの在庫状況がすぐにわかるシステムを開発。



長江陶業(株)

昨年に引き続き、産学協同の取組みにより、学生たちが空間を構成。細長いスペースを区切り、Reception room、Living room、Wash room、Hobby roomなどの部屋に見立て、各シーンに合わせたタイル使いを紹介。Garden spaceでは、ドームにタイルを張った小さなピザ窯(ピザ窯メーカーと共同制作)を展示。



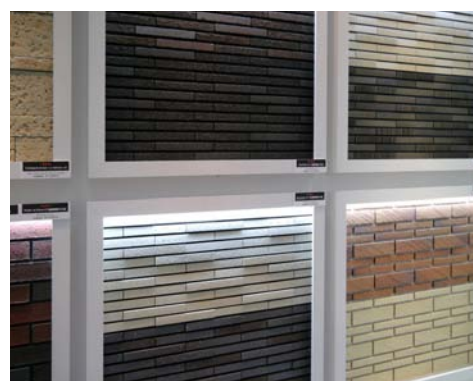
名古屋モザイク工業(株)

エクステリア・インテリア・フロアと場所別にタイルを展示。「SHADE DIESEL」はサテンのような光沢とグラデーションが特徴。「SALMA」は細く積み重なる陰影がレトロな印象。ブースの外側の壁には着物の柄として親しまれている麻の葉模様をモチーフにしたタイル「麻の葉」をデザイン張り。



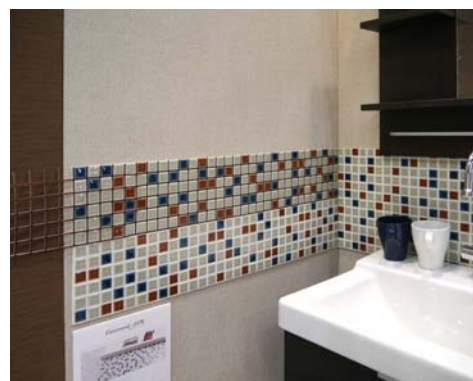
ニッタイ工業(株)岐阜工場

常滑を発祥の地とし、耐火れんがの製造・販売を始まりとする。土らしさを生かした無釉のタイルを中心に展示。「ボックルボーダーⅡ」は、凹凸のある張り方を特徴とする。「ショコラボーダー」は、フラット面と筋面のミックス張りにより、単体張りにはない表情を出す。



藤垣窯業(株)

トイレや洗面所をイメージした展示空間で、美濃焼タイルを使ったタイルシートによるDIYを提案。タイルシートは、裏面についているシールで張ることができ、目地ネットを装着して完成。目地ネットはゴム製で切るのも容易。防水、防菌、防災効果があり、色は白・黒・茶色を揃える。



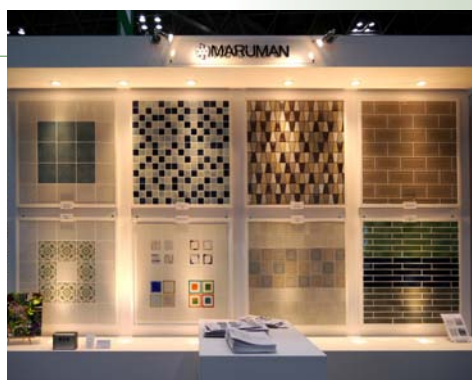
(株)丸喜

商業施設からマンション、戸建住宅まで幅広く使用できる大型セラミックタイルを展示。大理石の質感を再現した大判タイル「カンプリアン」は、従来の600×600に加え、1200×600、900×900のサイズも登場。新製品「ネロマルキーナ」はマットな質感。釉薬をのせる量により石の表情を豊かに表現。

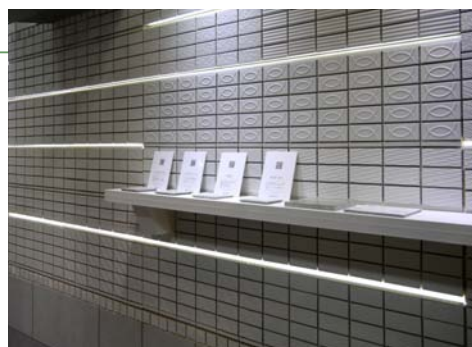


(有)丸万商会

「WINDOWPANE」「SHADE」など、落ち着いた色合いのタイルを展示。「HANDE MADE SERIES」は、一枚一枚、職人が模様を描いたタイルで、希望により様々なアレンジにも対応可能。花のようなレリーフを施した「DECO SERIES」は、15センチ角のタイルで、手彩色により好みの配色を施すこともできる。



ほかに注目した展示



(株)日東製陶所

毎年、「セラミックタイル美濃」で出展していたが、今年は個別に出展。様々な白色のタイルを用いて「近未来的な空間」を表現。壁に照明を仕込むなど、新たな使い方を提案。1500種類のタイルのデータを取り込んだVR（バーチャル・リアリティ）システムの体験も。

(株)イシワタ

電気鋳造により、金属表面に様々な表面形状を転写した内装材を制作。和紙や畳、木目等の自然素材の質感を表現したものや、古典的な文様を施したものなど多彩。



地下鉄の駅の壁や床がチョコレートに！ 「Toei Détail」

発表されたとたん、SNSで話題をさらった「Toei Détail」。都営地下鉄線の駅の壁や床をモチーフとしたチョコレートで、企画したのは東京都交通局。そのリアクティブさに驚きと賞賛の声が上がる中、心踊らせたタイルファンも多かったはず。

鉄道ファン、チョコファン、そしてタイルファンの注目を集めたチョコレートとは—？

それで…買いに行きました！

販売期間は3月11日～17日までの7日間。販売場所は都営新宿線「新宿三丁目駅」、都営大江戸線「新宿西口駅」、「都庁前駅」の3カ所。期間を通して1500個の限定販売。初日11日に東京都交通局のtwitterをみると、11時に販売開始し、10分ほどで売り切れという人気ぶりに息を飲む。

13日。万全を期して10時20分に販売場所に到着。すでに女性が3人待機。「もしや同志(タイルファン)?」。後から来た女性に聞いてみると、某有名チョコレート店に勤める夫から頼まれたとのこと。「私はタイルが好きで……」と話すと、「タイル??」とげげな顔(その後、しっかりタイルの魅力を伝えました)。列の後のほうは意外と男性が多い。「明日はホワイトデーだから」と聞いて納得。忘れていました。

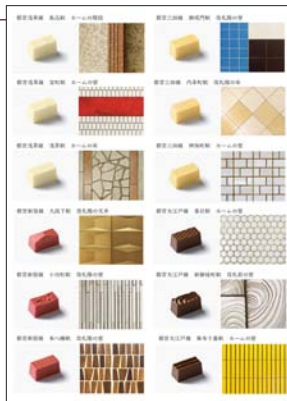
いよいよ販売開始の11時。もちろん無事に購入し、しばらくチョコを買い求める人たちを見守る。今日も10分ほどで完売(買えなかった方も・涙)。チョコレートからどんな会話が生まれるだろう。「この駅の壁を見に行こう」と駅デート、さらに「このタイルを部屋に張りしたいね」と展開……。なんて妄想しつつ、チョコを買った人たちがタイルの世界にも目を開かれることを切に願ったのでした。



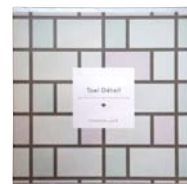
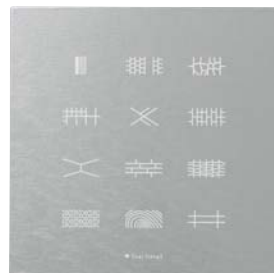
①	⑦
②	⑧
③	⑨
④	⑩
⑤	⑪
⑥	⑫



モチーフとなったのは12駅の床や壁、天井。「準備の段階で各駅を見て回り、各線3駅、チョコレートにして面白そうな特徴的なデザインのものを選んだ」と東京都交通局。



- ①都営浅草線 馬込駅 ホームの階段
- ②都営浅草線 宝町駅 ホームの壁
- ③都営浅草線 浅草駅 ホームの床
- ④都営新宿線 九段下駅 改札階の天井
- ⑤都営新宿線 小川町駅 改札階の壁
- ⑥都営新宿線 本八幡駅 改札階の壁
- ⑦都営三田線 御成門駅 改札階の壁
- ⑧都営三田線 内幸町駅 改札階の床
- ⑨都営三田線 神保町駅 ホームの壁
- ⑩都営大江戸線 春日駅 ホームの壁
- ⑪都営大江戸線 新御徒町駅 改札前の壁
- ⑫都営大江戸線 麻布十番駅 ホームの壁



箱は銀色。包装紙は4種類。
九段下駅改札階の天井(右上)。
神保町駅ホームの壁(右下)。

標本箱のよう!?

属する駅が記されて整然とチョコが並ぶ。個人的には新御徒町駅の壁が気になります。
監修はショコラティエの三枝俊介氏で、味も保証付き。



企画した東京都交通局に聞きました！

—企画の経緯は？

今回の企画は都営交通の様々な取組を情報発信するプロジェクト「PROJECT TOEI」の一環です。普段皆さんが何気なく利用している地下鉄の駅構内には様々な壁や天井、床などがあり、今回の企画で興味をもってもらい、都営地下鉄に対して親しみや愛着をもってもらいたいと思い企画しました。今回の商品名にもなっていますが、ディテールにこだわっています。素材には、加工もしやすく壁の模様や凹凸などをかなり忠実に再現できるチョコレートを選びました。

—これほどの人気を予想されていましたか？

予想以上の反響に驚いています。都営交通のPRという点では一定の成果が出ていると感じています。また、鉄道好き以外の方々にも興味を持ってもらえたなら嬉しいです。逆に「数が少ない」「販売期間が短い」などのお声もいただいております。今後の企画の参考としたいと思っています。

—第二弾をつくる可能性はありますか？

現時点ではありません。今後、今回の反響も踏まえて検討していきたいと思っています。



新宿西口駅の改札付近。
柱には「Toei Détail」のポスターが。